

知道 CHIDO-KAIHO 会報

95

編集 知道会広報委員会
〒310-0011水戸市三の丸3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内
発行人 鬼澤邦夫
発行日 令和元年10月1日
通巻 第95号
メール chidokai_mito@chidokai.jp
HP www.chidokai.jp

目次	会員の集い講演「美術館の使いみち」	2
	PERSON ー北澤佑子さん(平17卒)ー	3
	一高だより	4
	学年・地域等	6

知道会会員の集い 11/16(土)開催



昨年の創立140周年記念祝賀会の様子

令和元年度知道会会員の集い、第43回代議員会を令和元年11月16日(土) 水戸京成ホテル2階「瑠璃の間」にて開催いたします。

本年度の知道会会員の集い幹事学年は昭和63年卒(講演会担当)、平成10年卒(集い企画運営担当)、平成20年卒(受付・誘導ほか担当)の方々となっております。実行委員会を毎月実施し、趣向を凝らした講演会、懇親会を企画しております。多くの知道会メンバーとふるさと水戸の地で交流を深められる素晴らしい集いとなるよう、あと一ヶ月ラストスパートです。是非、知道会会員の集いに大勢の皆様がご参加いただきますようお願いいたします。また、会員の集い

に先立ち代議員会を開催いたします。代議員の皆様におかれましても、150周年にむけての今後の知道会の発展のために、たくさんのご出席を賜りますよう宜しくお願いいたします。

当日の詳細日程は以下の通りです。

12:30～ 受付開始

13:00～13:45 代議員会

13:50～14:10

生徒海外派遣プロジェクト報告会

14:15～15:05 講演会

講師 大谷省吾氏(昭63卒)

東京国立近代美術館美術課長
『美術館の使いみち』

15:25～17:15 懇親会

参加申し込みは同封の「知道会会員の集い」参加申し込み用専用振替用紙にて会費(5,000円)をお振込み下さい。

なお、今年も若い会員の皆さんに知道会の雰囲気を知っていただくため、卒業6年目(今年は平成26年3月卒業)以下の会員の参加費を無料といたします。また、子育て中の会員にも安心して参加いただけるよう、別室にて専門業者による託児サービスを当日15時～21時の間、開設いたします。詳しくは知道会ホームページをご覧ください。

以下、各幹事学年から担当企画についての紹介と抱負を寄せても

※次ページに続く

今年の「会員の集い」は11月16日(土)水戸京成ホテルで開催します

らいました。

昨年の創立140周年を終えて、知道会も150周年に向けての次のステージへ。皆さまのご来場を実行委員会一同お待ちしております。

今年の企画は 「映像で見る令和の水戸一高」

皆さんは卒業してから母校を訪れていますか？

平成10年の2号館（教室棟）、平成11年の1号館竣工で、我々が高校生活を過ごした校舎とは変わった部分もありますが、そこに流れる空気は今も変わっていないようです。

そこで、現在の一高の様子をご覧いただきたく、「映像で見る令和の水戸一高」として、今の校舎を撮影した映像を紹介する予定です。久しぶりに再会する恩師や友人達と映像を見ながら、学校生活での思い出話に花を咲かせてみてはいかがでしょうか。

また、我々も過ごした校舎では、今も後輩達が、勉学に、部活に、様々な面で活躍しています。この夏、「文化部のインターハイ」とも称される全国総合文化祭（佐賀県開催）に、一高合唱部の皆さんが出場してきました。映像では、合唱部の歌唱や生徒達から頂いたメッセージも紹介する予定です。現役の一高生達の活躍をご覧いただくとともに素晴らしいハーモニーをご堪能いただきたい思います。

多くの方々のご参加をお待ちしております。



卒業11年 たくさんのご参加を!

平成20年卒のみなさん、お元気でしょうか？私たちが一高を卒

業してから11年が経ちました。特に今年は元号が平成から令和に変わり、それだけでとても時間が経ってしまったように感じます。

在学中のことを振り返ると、全日HRや、クラスマッチ、学苑祭に歩く会とさまざまな行事がありました。特に歩く会は、「夜のピクニック」が映画化され、撮影に参加するという貴重な体験ができて、良い思い出となりました。

そんな一高での学生生活を送っていた私たちも、今や進学や就職で多くが茨城を離れ、顔を合わせる機会を作ることなかなか難しいのではないのでしょうか。今年30歳を迎える私たちが知道会の幹事学年ということで、知道会会員の集いの後に学年同窓会を開催します。この節目の機会に楽しく、懐かしいひと時をみなさんと過ごせればと、幹事一同準備を進めています。たくさんの方々のご参加を、心よりお待ちしております。

（平20卒幹事一同）

会員の集い講演「美術館の使いみち」



講演者プロフィール：

大谷省吾（おおたにしょうご）

1969年生まれ。1988年水戸一高卒。1994年筑波大学大学院博士課程芸術学研究科中退。同年より東京国立近代美術館に勤務。現在、同館美術課長。博士（芸術学）。「地平線の夢 昭和10年代の幻想絵画」（2003年）、「生誕100年 岡本太郎展」（2011年）、「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」（2019年）などの展覧会を企画。著書『激動期のアヴァンギャルド シュルレアリスムと日本の絵画1928-1953』（国書刊行会、2016年）ほか。

講演概要：

近年、ビジネスパーソンを対象に、美術鑑賞を通じて発想力やコミュニケーションスキルを向上させようとする本が相次いで刊行されています。人気の展覧会には長い行列ができることもしばしばです。しかし一方では、日本国民の4人に3人は、1年間に一度も展覧会を見に行かないという調査結果もあります。なんだか、もったいないですね。美術館に行くと、どんないいことがあるのでしょうか。どうしたら美術館を楽しめるでしょう。おもしろくて、ためになる美術館活用法をご紹介します。

北澤佑子さん
(平17卒)

今秋、
南極へ

平17卒
北澤 佑子さん



平成17年卒の北澤佑子さんが、第61次の南極観測隊の同行者（教育関係者）に選ばれました。北澤さんは茨城県立守谷高等学校で理科（生物）の教諭をしています。本県の教育者が同行者に選ばれたのは、北澤さんが初めてだそうです。北澤さんは、3度目の挑戦で念願の南極への切符を手に入れました。

聞き手：宮内寿子

(昭47卒 広報副委員長)

○なぜ南極に惹かれたのですか。

筑波大学大学院のときに、過去に南極地域観測隊員であった教授の講義を受け、「教員南極派遣プログラム」というものがあることを知り、いつか自分も行ってみたいという気持ちが芽生えました。そのことがきっかけですが、国立極地研究所に関する記事で「南極では科学も育てるし、人間も育てる」という言葉に、心が動かされました。教師として行ってみたいという気持ちで選考を受け、三度目の挑戦で実現しました。南極観測隊員として体験された人たちに、熱い志を感じます。私はそれを「南極魂」と名付けました。

○南極での経験を通して教育者として伝えたいことは？

まだ経験はしていませんが、私たちは人と人とのつながりの中で生きています。だから、人と人との縁に感謝しながら、夢に向かって進んでほしいと思います。いろいろな考え

や価値観がある中で、共に生きる社会だからこそ、相手を理解しようとする素直な気持ちがとても大切であり必要だと考えます。南極は地球の未来を開く窓。チーム地球の一員として参加し、主体的かつ協働して地球の未来を考えながら行動するとはどういうことかを、生徒たちにも伝えたいと思っています。私が南極に行くことができるのも、私一人の力ではなく、応援してくれる多くの人たちがいたからです。その人たちのためにも、頑張りたいです。

○具体的に授業について教えてください。

来年の1月25日にミュージアムパーク茨城県自然博物館、1月27日に守谷高校で、南極からライブ中継の授業を行います。実際に南極の海で釣りをして、何が釣れるのか、目の前で

動く生き物の様子を知ってもらいたいです。

○北澤さんが大切にしている言葉や思いを教えてください。

私の座右の銘は「至誠一貫」です。何事にも誠意をもって真摯に取り組みたいです。

○高校時代の思い出は何ですか。

応援団の仲間同士での口喧嘩ですかね。目指す方向は同じであり、一人ひとり本気で考えていました。自分の考えや思いを素直に語れることが出来る仲間恵まれた高校生活でした。人の考えを丁寧に聞く大切さを知ることができました。みんな自分なりの考え方を持っていました。他者との違いを認め合う。枠にとらわれない、多様性を認め合って本気で楽しんでしまおう、そういう行動力と仲間意識は、今でも生きる糧になっています。



国立極地研究所 提供

この記事のほか、北澤さんのお話を
知道会ホームページに掲載しています。

第42回代議員会報告

第68期（平成30年10月～令和元年9月）第42回代議員会が令和元年5月18日（土）14時から知道会館において開催されました。審議等概要は以下の通りです。

- (1) 河野幹事長以下各委員会委員長から、第68期の中間事業報告として事業が概ね順調に進捗していること、また、学年・地域・職域知道会の活動状況について報告されました。
- (2) 第68期中間収支について関田國作財務委員長から報告され、引き

続き会費納入率向上・口座振替の促進に努めたいとの説明がありました。

- (3) 創立140周年記念事業予算書について、河野幹事長より、140周年事業会計は今期末で締め、海外派遣プログラム（150万円×9年）（平成30年度は支払済）、大会等遠征補助（50万円×10年）について定期支出を行うことの説明がされました。
- (4) 代議員会終了後、3月に実施された海外派遣プロジェクトについて、派遣生徒による報告発表がありました。

EVENTS

平成31年

4月

- 9日 水戸一高入学式
- 8日 名簿委員会
- 14日 みつば知道会総会
- 20日 第68期第2回幹事会
- 24日 広報委員会
会報94号 校正会議
- 〃 総務委員会
令和元年会員の集い
第1回実行委員会

令和元年

5月

- 8日 親睦委員会
- 17日 市役所知道会総会
- 18日 第68期第42回代議員会
- 25日 水戸下市知道会総会
- 29日 総務委員会
令和元年会員の集い
第2回実行委員会

6月

- 1日 常陽知道会総会
- 8日 水戸桜山知道会総会
- 15日 笠間知道会総会
- 16日 西日本水中一高会講演会
- 22日 第40回知道会ゴルフ大会
静ヒルズカントリー倶楽部
- 23日 常陸太田知道会総会
- 24日 県庁知道会総会
- 26日 総務委員会
令和元年会員の集い
第3回実行委員会
- 29日 岩間知道会総会
- 〃 城里知道会総会

7月

- 6日 土浦水中一高会例会
- 〃 茨城町知道会総会
- 〃 友部知道会総会
- 12日 鹿行知道会例会
- 13日 水戸南部知道会総会
- 24日 総務委員会
令和元年会員の集い
第4回実行委員会

8月

- 20日 広報委員会
会報第95号 編集会議
- 24日 新荘知道会総会
- 〃 総務委員会 暑気払い
- 31日 那珂知道会総会

9月

- 7日 行餘学会(湊・水中一高会)
総会
- 24日 広報委員会
会報第95号 校正会議
- 25日 総務委員会
令和元年会員の集い
第5回実行委員会
- 28日 東京知道会との交流会
- 10月
- 19日～20日 第71回 水戸一高
歩く会(東海コース)
- 30日 総務委員会 令和元年会員
の集い第6回実行委員会

このページでは、この夏、全国レベル以上で活躍した個人・団体の紹介をします。

山岳部 インターハイ2年ぶり男女団体 アベック出場

8月2～6日に宮崎県高千穂町においておこなわれた令和元年度全国高等学校総合体育大会登山大会に、山岳部が男子団体女子団体部門で2年ぶりアベック出場をした。

競技は、体力や歩行技術だけでなく、設営・炊事等も審査される。さらに、救急・気象・自然観察や地図読解の知識までも審査対象である。3日間の山行と開会式後のペーパーテストによって100点満点で点数付けが行われ順位が決まる。男子団体は、CH瀧口周平(34)、小室翔平(37)、桐原大地(26)、井坂晴樹(28)の4名、女子はCH鈴木里佳(24)、佐藤寿々花(23)、草野咲(28)、根本さくら(24)の4名が出場した。大会は最終登山日、台風により日本百名山である祖母山の頂上は踏めなかったが、その他の山行は暑い盛りの登山大会で、選手は暑さとの戦いとなった。結果は男子97.1点の第9位、女子は90.9点の第27位に終わった。男子の9位は、本校山岳部の歴史としては最高位である。

今大会には、男子は2年生が2名、女子は全員2年生と言うことで、来年の群馬大会では上位進出が期待できそうである。



男女団体メンバー

化学部 第43回全国高等学校総合文化祭 自然科学部門 出場

7月27～29日に佐賀大学本庄キャンパスにて、第43回全国高校総文祭(自然科学部門)が開催された。

ポスター部門の茨城県代表として、化学部の筒井瑤子(28)と柳田有貴子(22)が「有機溶媒下における酸化亜鉛の光触媒作用」の発表を行った。他校生の全国レベルの発表を聴講したり、審査員からの鋭い質問やアドバイスを耳を傾けたり



筒井(中央) 柳田(右)

する姿が見られた。巡検研修では、佐賀大学海洋エネルギー研究センターや伊万里湾カブトガニ繁殖地を見学させていただいた。生徒たちは、全国大会という広い空間での発表や交流を楽しみ、幅広い知見を得られたのではないかと感じている。

美術部

第43回全国高等学校総合文化祭 美術・工芸部門 出場

7月27日(土)から31日(水)まで佐賀県佐賀市にて開催された、第43回全国高等学校総合文化祭美術・工芸部門に、黒沢美紀(38)の作品「星を繋ぐ人」(油絵S50号)、藤枝真音(39)の作品「和而不動」(油絵S50号)の2作品が、茨城県代表として出品された。茨城県代表10作品のうち、本校から2作品選出されることは快挙である。また、黒沢は2年連続茨城県代表となりこれも快挙と言える。今回の参加によって大きな財産を得たであろう。



黒沢(左) 藤枝(右)

棋道部

第43回全国高等学校総合文化祭 囲碁部門 出場

7月27～28日に佐賀県鹿島市の県立鹿島高校で総文祭囲碁部門が開催された。本県代表として、渡部仁(男子個人戦、28組)、田隅響介(団体戦県メンバー、22組)が参加した。2日間で各々6回対戦を行い、棋力を競った。結果は、渡部が2勝で全体35位、団体戦も2勝で33位であった。豊富な県外大会経験をもつ渡部は落ち着いて、団体戦主将を任された田隅はチームの和を気遣いつつ頑張った。鹿島市は、囲碁礼式を固め基聖と称される寛蓮(平安時代)の出身地で、囲碁発祥ゆかりの地での大会であった。



田隅(左) 渡部(右) 鹿島高校赤門前にて

アマチュア無線部

第16回全国高等学校ARDF競技 大会入賞

7月27日から29日にかけて、新

鴻巣阿賀野市で第16回全国高等学校ARDF競技大会が開催された。初日に行われたスプリント競技では、女子の部で児玉樹里(26)が個人5位に入賞し、団体の部でも6位に入賞した。2日目には144MHzクラシック競技が猛暑のなか行われ、リタイアする選手も出たが、出場した部員全員がゴールした。個人の部での入賞はなかったが、部員の総合力を発揮して、団体の部で6位に入賞することができた。



出場メンバー

合唱部 第43回全国高等学校総合文化祭 合唱部門 出場

8月1日に佐賀県鳥栖市民文化会館で開催された合唱部門の発表に出場した。本校の合唱部が参加するのは初めてで出演人数も17名と少なかったのだが、堂々と発表することができた。指揮も伴奏もないスタイルで演奏したのは本校だけだったと思う。前日のリハーサルも顧問会議と時間



本番直前リハーサルの様子

が重なってしまい、矢花滉太郎(36)を中心として生徒だけの練習を行った。日頃の練習から自分たちで音楽作りをしてきたため、他校にない「自分たちの」演奏ができたと思う。部員みんながそれを楽しんでいたのが一番の成果だと感じた。

放送部 第66回NHK全国高校放送 コンテスト 出場 第43回全国高等学校総合文化祭 放送部門 出場

7月22日から25日に東京都で開催された第66回NHK全国高校放送コンテストに、ラジオドラマ部門に小田麻晏子(24)、アナウンス部門に小栗舞桜(39)、朗読部門に千葉樹子(36)が出場した。

また、第43回全国高校総合文化祭放送部門の朗読部門に、千葉樹子(36)が出場した。両大会とも惜しくも入賞や上位進出は逃したものの、全国レベルの作品や発表に触れることができ、良い刺激になった。



千葉 発表の様子

バレーボール部 第27回日・韓・中ジュニア 交流競技大会 出場

第27回日・韓・中ジュニア交流競技大会が中国・湖南省長沙市にて行われ、水戸一高バレーボール部から

住谷大輔(33)が日本代表選手として参加した。10競技245名で日本選手団を組み、8月23日に日本を発った。25日に長沙市選抜チームと、26日には韓国代表チームと試合をし、共にストレート勝利を収めた(いずれもスタメン出場)。27日には中国代表チームと対戦し、2mを越える選手が多々いる中、スタメン出場した住谷も活躍したが、残念ながらセットカウント1-3で敗れた。28日には市内観光ということで、嶽麓書院や湘江中州にある毛沢東像を見学した。国際試合や中国の文化にも触れることができ、素晴らしい経験になったと思う。

吹奏楽部 全日本管打楽器ソロコンテスト 第1位・文部科学大臣賞

3月26日に、東京都・上野学園石橋メモリアルホールで行われた、第23回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト高校生部門に、大峽航太(21)が関東甲信越支部代表として出場した。当日は全国から選ばれた28名の高校生が出場、大峽はクラリネット独奏でヴィッドマン作曲「ファンタジー」を演奏して、見事第1位となり、あわせて文部科学大臣賞を受賞した。審査員からは「一流演奏家のコンサートに来ているようでした」「現代曲を見事に自分のものにしており、頼もしく思います」などの講評をいただいた。



大峽 演奏の様子

蜜蜂と遠雷

2019年10月4日(金)
全国東宝系にてロードショー

恩田陸さん(昭58卒)による、史上初の直木賞&本屋大賞W受賞の「映像化不可能」と言われた傑作が遂に実写映画化、全国公開されます。国際ピアノコンクールを舞台に、亜夜、明石、マサル、塵(じん)という世界を目指す若き4人のピアニストたちの挑戦、才能、運命、そして成長を描き、恩田さん本人が、「そもそも、この小説は絶対に小説でなければできないことをやろうと決心して書き始めたもの」で、「映画化の話があった時は、なんという無謀な人たちだろうとほとんど内心あきれていた」とコメントを残しています。スタッフ、キャスト、楽曲まですべて妥協なく作られた作品をぜひ劇場でご覧下さい。



©2019映画「蜜蜂と遠雷」製作委員会

【キャスト・スタッフ】

松岡茉優 松坂桃李
森崎ウィン 鈴鹿央士(新人)
原作: 恩田 陸「蜜蜂と遠雷」(幻冬舎文庫)
監督・脚本・編集: 石川 慶
配給: 東宝

陸上部OB会

令和元年8月15日、ホテル テラス ザ ガーデン水戸で水戸一高陸上部OB会が開催されました。参加者は、昭和37年度から47年度卒業の陸上競技部OB27名。地元水戸在住の方や東北・関西に住んでいる方、遠くはニュージーランドから来た方々です。各地から、約50年ぶりの旧友との再会を期待し集まりました。

昭和40年代に顧問を務められた石川隆義先生をお迎えして、当時の歩く会の裏話などを伺いました。歩く会優勝に向けて決意や厳しい練習、走っているときの心境などが熱く語られました。

参加者一人一人のスピーチもありました。この会で、初めて会う者同士でも話が弾みました。締めには校歌を斉唱し高校にエールを送って散会しました。



ボクシング部OB会

私たちの水戸一高ボクシング部OB会は、平成14年に設立以来、毎年総会を続けて、令和元年7月13日は18回目の開催になります。

今年も三の丸ホテルの会場に、健康に恵まれた17名(かつての雄姿)の方たちをむかえ、和気藹々のうちに会議と懇親の場がもたれました。会議の主な内容は、故人に対する黙祷と、決算報告と承認、そして新会長の選任。ここまでは滑らかに進みましたが、問題は若手の方々の参加が減っていること、この一事です。

昭和から平成にかけ、母校で部に在籍し、日々の練習に励み、時には他校との試合に臨み、流した汗とワセリンと血の匂いをひそかに青春の思い出にしている仲間のみなさん。OB会の門を叩いてください。いつでも歓迎です。

知道会事務局の方々にはいつもお世話になってばかりです。この稿を借りて深く感謝の意を表します。



昭和37年当時の軽量級の四天王

県庁知道会総会

令和元年6月24日(月)、水戸京成ホテルにおいて、令和初の「県庁知道会」総会を122名の出席により開催しました。

県庁知道会は、県職員の知道会員で構成され、年に1回総会を開催しています。今年は、名誉顧問である大井川和彦茨城県知事をはじめ、特別顧問である鈴木定幸茨城県議会議員、遠藤実茨城県議会議員、顧問である澤田勝企業局長、来賓として、河野秀幸知道会幹事長、高村祐一水戸一高校長、黒澤勝則ときわ知道会会長のご臨席を賜りました。大井川知事からは、これからの高校教育の取り組みについて、高村校長からは、母校の近況や取り組みなどにつ



いて、ご挨拶いただきました。また、昨年度末に定年退職を迎えた先輩方へ、長年にわたる県行政の発展へのご尽力に対する感謝を込めて、花束を贈呈しました。

懇親会では、参加者が年代を超えた交流を図りながら親睦を深め、最後は応援団OBの音頭による全員での校歌斉唱、エールで会を締めくくりました。

会長 服部 隆全(昭53卒)

土浦水中一高会

あと二つ勝てば21世紀枠の甲子園出場という大事な試合に負けてしまった9月14日に、これを書いています。試合会場土浦で、こんな大事な試合、土浦水中一高会は最大限の動員をし、旗やのぼりで応援に行かなかったこと会長として反省しています。

今年度土浦水中一高会7月6日(土)参加者27名で行われました。高村新校長、河野新幹事長に出席していただきながら例年より寂しい人数でしたが、水戸中学卒業2人から平成24年卒業迄そろい旧交を温めあいました。中学22年卒の後藤先輩のますますお元気の乾杯の音頭(その中での戦後間もないころの水戸中学の様子・体験は貴重な歴史物語でした)から始まり、恒例の30分講義は当事務局長毛塚さん(昭60卒)の「お城めぐりのすすめ」で、現存する12の天守閣を中心に、日本のお城の魅力を体験を踏まえ話してくれました。打ち上げは現医者で元



応援団長であった一色さん(昭41卒)のリードで校歌斉唱、大きな声で歌った後、来年もまた元気で再会することを誓い合いました。(桐原記)

常陸太田知道会

常陸太田知道会は、常陸太田市及び近隣市町村在住会員(会員数71名)で構成されています。主な行事は、年2回のゴルフコンペとハイキング、そして偶数月第一火曜日の親睦会(「溜り場懇親会」と称しての飲み会)を行っています。また、年1回、15～16ページにも及ぶ会報を発行し、会員の所思雑感などの寄稿を通して会員相互の親睦を深めています。

6月23日には本部からも河野秀幸幹事長のご臨席を頂き、総会を市内料亭で開きました。平成30度の事業・決算報告、令和元年度の事業計画や予算案等を審議し、全員一致で承認されました。

また、役員改選が行われ、新たな会長に山田敏雄(昭44卒)、幹事長に大津俊廣氏(昭44卒)が選任されました。

総会後には、河野・本部幹事長から最近の母校の動向、知道会の活動状況等のお話があり、多方面に渡る活動に興味深く聞き入りました。懇親会では、料理や酒に舌鼓を打ちながら出席者全員が近況報告をし、各人の活動や思い出話に花が咲き、最後に校歌を斉唱して盛会のうちに中締めとなりました。

現在、常陸太田知道会は新入会員を募集しています。一人でも多くの



方の入会と各種行事への参加を願って、より一層有意義な人生を送っていただければ、と思っています。入会希望者は下記あてご連絡ください。

連絡先／山田(0294-72-0633)

大津(0294-74-4424)

山田敏雄(昭44卒)

鹿行知道会

鹿行地域は、県の南東地域で北浦、霞ヶ浦と太平洋に囲まれた地域を指します。鹿嶋市、神栖市、潮来市、鉾田市、行方市がそのエリアに入ります。古来より日本の東を守る神様として鹿島神宮が位置しています。現在では鹿島臨海工業地帯として発展をつづけており、また鹿島アントラーズのホームタウンでもあります。

鹿行知道会は30年ほど前に高木彦治(昭29卒)氏、和田剛一(昭34卒)氏、綿引徳治(昭32卒)氏が中心となって設立いたしました。初代会長は平輪憲治(昭8卒)氏、つづいて綿引徳治氏、現在は松倉則夫(昭41卒)氏が就任しております。鹿行知道会会員は100名程度ですが、地域柄新しい会員が増えないのが悩みです。

本年の例会は7月12日(金)夜にいつものサンロード鹿島で開催されました。あらためて鉾田市の会員にも参加を呼びかけたこともあり、20名と例年より多くの参加を得ることができました。幹事の柳川隆則(昭51卒)氏が司会、工藤仁一(平5卒)氏が会計を担当し和気あいあいと会がスタートしました。知道会事務局から河野秀幸氏を迎え水戸一高の近況を伺ったあと、全員がスピーチして近況を確かめ合いました。参加者には鹿島神宮宮司の鹿島則良(昭40卒)氏、前鉾田市長の鬼沢保平(昭47卒)氏などがおりました。最後に元水戸一高応援団の川上修(昭41卒)氏の掛け声で水戸一高校歌につづい

て、今年は第二校歌(正義の歌)も歌って盛り上がった会を締めくくりました。

鹿行知道会会長 松倉則夫 記

親睦ゴルフ大会

令和元年6月22日、静ヒルズにおいて知道会恒例の第40回親睦ゴルフが行われました。参加人数は29名、昭和29年卒から平成28年卒までの幅広い年齢層がプレーをされました。

当日の天気は比較的涼しく、一人もけが人がでることなく、無事にパーティーを迎えることができました。コンペを制したのは昭和29年卒の植田春夫氏、ゴルフが趣味とのこと。優勝の挨拶においてかくしゃくとされていた姿が印象に残りました。

惜しくも準優勝となったのは参加者最年少の平成28年卒井上浩輔氏でした。

結果、最高齢と最年少が1位と2位になった今回の親睦ゴルフ。改めてゴルフの奥深さと面白さを参加者と共有できるものとなりました。

(親睦委員長・加藤尚弘)



書籍紹介

ありがとうのがみ

ながいてつや
(永井徹也/昭51卒) 著
文芸社
1200円+税



ペリカンの郵便屋が落とした手紙から始まる物語。誰もがうれしくなる「ありがとう」が、ほっこりとした絵とともに輪になって広がっていく。読んだ後、大切な人に「ありがとう」と伝えたい、大人も読める絵本。

総務委員会

令和元年会員の集い実行委員会
は7月までに4回の実行委員会を
終え、恒例の暑気払い企画を8月24日(土)、水戸市宮町の
「多国籍Dining BACKPACKER」にて開催しました。今回は
正副幹事長、実行委員会メンバー（総務委員会、各担当学
年幹事）だけでなく、総務委員会以外の委員会の方々にもお
声がけをし、より知道会役員の結束を強める目的で、委員会
の壁を超えての懇親会とさせていただきます。お店の屋上
を利用したビアガーデンにて22種類の日本国内のクラフト
ビールを飲みながら会員の集い成功に向けて意見交換をしつ
つ、また途中には栗原前幹事長のサプライズな登場もあって
賑やかなものとなりました。

実行委員会も開催に向けていよいよ大詰め。会員の集いの
講演・企画など詳細につきましては本号の記事をご覧ください。
また、随時知道会ホームページに情報を掲載して参ります。

親睦委員会

「平成」という元号が31年の幕
を下ろしました。知道会会員の自
己紹介においては卒業年を頭に持ってくるわけですが、
今後は平成卒が増加してくるものと予想されます。会員
との親睦を図るばかりではなく、会員の増強という側面を有
している委員会の性質におきましても、平成卒の会員の交流
促進は不可避であるものと思われます。知道会会員同士の親
睦を図る目的のもと、会員の皆様方の多くが参加でき、交流
を深めていける方法を模索していくところとなりますが、何
卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

親睦委員長 加藤 尚弘

財務委員会

年会費の納入は口座振替で！

財務委員会では、銀行等預金口座振替による年会費納入を

推進しております。

皆様にお届けしている「知道会報」は、会員相互の親睦の
ために、皆様の年会費で製作・発送しております。

また、皆様の年会費は、母校への助成事業として各種大会
参加への援助や、生徒海外派遣の助成などに拠出されてお
り、母校の発展と将来ある在校生たちの応援に結びついてい
ます。母校のさらなる発展、後輩たちの活躍は、われわれ同
窓生にとっても、誇りとなるものです。

趣旨ご理解いただき、ぜひとも年会費の納入にご協力をお
願いします。

口座振替での年会費納入をご希望の方には、事務局より振
替依頼書を送付しておりますのでご連絡ください。

名簿委員会

名簿発行につきましての会員の
皆様の日頃のご理解とご協力に感
謝申し上げます。名簿は会員の皆様にご活用いただくことを
心がけておりますが、近年の個人情報保護の重視と全国的に
は名簿の内容が詐欺のためのデータとして悪用される事案も
ございますので名簿の元となるデータは事務局において管理
され、電子的データとしてご提供することはいたしませんし、
印刷の形でお渡しする時も限られた範囲でのものしか提供は
いたしておりません。従いまして、例えば選挙でのご通知等
会員全般に対しての郵便物が配布となったとしても、それは
知道会として提供したものではなく、すでに慣行された名簿
等の利用によるものと推測されます。名簿は会員相互の親睦
のためにも重要なものであり、今後とも発行を続けるために
名簿委員会としても引き続き名簿掲載へのご同意をいただい
た情報の管理と名簿の機能の充実に努めていく所存です。引
き続きのご支援を宜しくお願い申し上げます。

名簿委員長 水口 二良

物 故 者 (H31.3 ~ R 元 .9 迄にご連絡を頂いた方を掲載しました。)

旧職員 佐藤 勝男	昭24中 久保田 肇	昭30高 飯島 正明	昭41高 加藤木寿治
昭12中 前島 清	昭25高 山内 建	昭31高 軍司 良治	昭41高 寺門 茂
昭15中 飯島 一昭	昭25高 関 光雄	昭31高 根本 克孝	昭43高 根本 孝明
昭16中 佐藤 善介	昭26高 卜部 恒	昭31高 鶴谷 敏明	昭44高 桑名 幹夫
昭16中 関根 賢治	昭26高 中村 正一	昭33高 大和田(飯島)文雄	昭44高 皆川 裕
昭19中 郡司 哲男	昭26高 伊藤 忠	昭34高 桑山 肇	昭44高 狩谷 岳郎
昭20中⑤飯田 明	昭27高 立川 明朗	昭34高 荒井 保	昭45高 遠藤 祐史
昭20中④安達 芳男	昭28高 木澤 要治	昭35高 染野 誠一	昭45高 藤枝 実
昭20中④大和田和夫	昭29高 鈴木 正治	昭35高 中村 正孝	昭46高 嶋志田充良
昭20中④関根 直正	昭29高 雨宮 廣二	昭35高 川澄 満男	昭49高 大内 雅司
昭21中 神長 次朗	昭29高 大久保貞義	昭36高 田村日出男	昭53高 森田 真一
昭21中 服部(坂本)常男	昭30高 森山 淑夫	昭36高 平根(樋口)昌子	昭60高 岡野 宗徳
昭21中 佐藤 勝男	昭30高 大澤 壽一	昭37高 関山 真樹	平 7 高 林 好文
昭22中 小林 千之	昭30高 川島 始	昭38高 中村 博美	
昭22中 坂口(三浦)義信	昭30高 堀江 龍郎	昭40通 和田(竹内)かつ子	

【事務局から】

会員からお問い合わせを頂くことがございますが、知道会事務局では特定の政
党や企業・団体に会員情報をお渡しすることはありません。同窓会・部活動OB
会等の開催案内等で宛名シールが必要な場合に限り、幹事の方の本人情報を確認
の上、実費で提供しております。同窓会開催などの際にはぜひご利用ください。
事務局の運営時間は、月・水・金の10時から15時までとなっております。電話
が繋がらない場合には、chidokai_mito@chidokai.jpまでメールでご連絡を
お願い致します。

学校基本データ

学 校 創 立 1878年(明治11年) 10月2日

令 和 元 年 創立141年

同窓会員数 38,789名

住所判明者 21,424名

在籍生徒数 970名(男子528名 女子442名)

(令和元年9月現在)